

「神道」～神職である通訳案内士が伝えたい日本人のころ～

2016年11月10日（木）（一社）日本観光通訳協会(JGA)

第一支部研修終了レポート

11月10日（木曜日）13:30～16:40 東京の浅草文化観光センター5階大会議でJGA主催の第一支部「神道研修」が開催されました。浅草文化観光センターの建物は雷門のはす向かいにある、有名な建築家隅研吾氏の作品です。総勢55名（JGA会員52名、非会員1名、運営委員2名）の参加を得て会場はほぼ満席状態。首都圏だけでなく、愛知県や関西地区からもご参加が複数あり、JGA研修への興味の高さが感じられます。当日の講師は、なんと本物の神職さんにして、当協会の正会員かつ英語の通訳案内士でもいらっしゃる安孫子英智氏。神職の装束で現れ、終始穏やかな笑顔で講義下さったことがとても印象的でした。



第一部は、神道の基本についての講義でした。が、冒頭に難しい質問が講師からありました。「12月25日は何の日ですか？」多くの受講者が「クリスマス」をイメージしたのは言うまでもありません。実は、大正天皇がお隠れになられた日で、大正から昭和への移行の「大正天皇祭」であり、神社では大忙しの日だそうです。講義では、講師がご準備下さったカラー印刷の資料やビデオを使い、神道とは何か、日本人の生活習慣、精神文化に生きる神道、罪穢れ・禊祓の思想について、あるいは神道と仏教の関係についてなど神職の立場から詳しくお話下さいました。大神神社（おおみわじんじゃ）の神奈備（かんなび）から始まり、日本人の生活習慣や精神文化に生きる神道、戦後のGHQの神道指令に至るまでの歴史的分析も説明下さいました。

第二部では、神主の正式装束で登場されて正式参拝の作法をご披露下さいました。また、雅楽の名手でいらっしゃる先生は、笙（しょう）、箏（ひちりき）、龍笛（りゅうてき）を実際に奏で下さいました。なかなか生の雅楽を拝聴する機会は少ないですが、笙の優雅な響き、それとは対照的に箏の音量の大きさに感動しました。受講者から出た多くの質問に丁寧に回答くださり時間を少々延長してお開きとなりました。先生が神職なるために受けた研修の様子等も伺うことができ、貴重な機会となりました。



講師の安孫子さんには沢山の貴重な楽器やお品物を持参下さり、神職の装束をまとめて下さり、あっという間の3時間でした。是非再度の研修をお願いしたいと思います。研修報告については、トラベルコンパニオン誌4月号に掲載予定ですので、会員の皆様は楽しみですね。（以上）